

1991年度

積雪期から

G.W.までの

山行報告

信州大学山岳会

～目次～

December.

- ・ハク岳-熊名峰北稜, ジョウゴ沢 ----- 2
- ・鹿島槍ヶ岳-赤岩尾根 ----- 2-3
- ・戸隠連峰西岳P1稜 ----- 3
- ・富士山 ----- 3
- ・ハク岳-ジョウゴ沢, 石尊稜 ----- 4

January.

- ・ハク岳-抱岳東稜 ----- 5-6
- ・ハク岳-阿弥陀岳北稜, 赤岳 ----- 6-7
- ・美ヶ原スキー山行 ----- 7
- ・ハク岳-赤岳主稜, ジョウゴ沢 ----- 6

February.

- ・ハク岳-阿弥陀岳北稜, ジョウゴ沢, 南沢中滝 ---7-8
- ・ハク岳-赤岳主稜, 石尊稜 ----- 8
- ・甲斐駒-鳳凰三山 ----- 9

March.

- ・文登研冬山リ-タ-講習会 ----- 10
- ・剣岳-奥大目尾根 ----- 10-11
- ・戸隠連峰西岳P5稜 ----- 11
- ・鹿島槍-東尾根 ----- 11-12
- ・岩菅山スキー山行 ----- 12

April.

- ・剣岳-源治郎尾根 ----- 12-13
- ・Golden Week 合宿 ----- 13-14
- ・各係の報告 ----- 15-16
- ・個人の反省 ----- 16-19
- ・作文 ----- 19-20

● 1/7 一無名峰北稜, ジョウゴ沢  
12/1 ~ 9 L 兼岩橋口

1/7 美濃戸 <sup>PM</sup> 8:00 着 ①

赤尾鉦泉 <sup>PM</sup> 10:10 着 ①  
BC.

1/8 無名峰北稜

BC 6:00 着 ①

取付 8:00 ①

登山開始 4:30 ①

HP 11:51

稜線 1:00 ①

石虎黄岳 3:00 ①

BC 4:30 ①

北稜の取付をまちがえ一本手前の沢に入ってしまったので、尾根をカブツで5/11の取付へ通ずる沢へ入った。9P目が「核心」で、8Mほどのアプローチのどれをい「ボロボロ」のフェースを登る最後の1Pは省略して右のルンゼに逃げ「稜線」にできた

1/9 ジョウゴ沢 ~ 下山

BC 5:30 着 ②

F1 6:00 ②

大蔵 8:00 ②

BC 10:00 ②

F2は登らず「左のルンゼ」をのぼったナメ遣いおもしろい。氷の量はあまりよくない。

BC 12:00 着 ②

美濃戸 13:30 着 ②

(は(0))

● 鹿島槍ヶ岳 (赤岩尾根)

シホ久保, 松下, 世継

1/7.0 6:50 大倉泉 越 7:40 ~ 赤岩尾根 ~ 12:35 冷池山荘  
\* 鹿島小区内にテントを張る。赤岩尾根は登りやすかったが  
よのちはいやらしい。

12/8 6:50 麓 - P:00 南峰, P:30 麓 - ZP: Fix - 10:40 北峰  
 11:00 麓 - ZP: Fix - 12:40 南峰, 13:00 麓 - 14:00 北峰  
 船乗 - 北峰 登山道外之思い, Fix は 南峰 登山道降り口の木のかり - 30m  
 21km の距離 40m 後は T.I.E. まで, 降りて同じ。

12/9 下山

鹿島 山 と、さか、さか、さか。 鹿島 山 と、さか、さか、さか。  
 冬期 山 登山道 鹿島 山 と、さか、さか、さか。 鹿島 山 と、さか、さか、さか。  
 鹿島 山 - 北峰 登山道 細く、雪が場所が凍り付いて 下りでの 山行  
 には、不同。

(植森)

戸隠連峰 西は P: 稜 (142-8) 山: 三浦山, 植垣。

12/8 2:15 上楠川林道 終点 ① → 11:30 鹿の越 大場 ②  
 → 16:15 無念の峰下 T. ③

・ 鹿から上は 40m くらい、ルートは 5 歩の 顕著なルンデを登った 方がよい。

12/8 2:15 T. ③ → 8:30 戸渡り ④ → 10:00 777- → 11:30 ⑤ → 12:00 上楠川。

・ P1 は 相変から 777- 降り場 の 50% くらい。ルートは 12 年の 報告書と  
 参照して 下り。777- は 絶好の 登山道 (植垣に 沿う)。

(三浦山)

富士山 山: 河西, 宮坂, 石坂 (三重大学山岳部)

12/8 ① 11:30 中の茶屋 → ② 14:30 五合目 佐藤小屋 TS

12/9 ① 6:00 TS ——— <sup>10:00</sup> ③ 山頂 ——— 10:30 まで 3776m の 空気 を 吸う。  
 ——— ④ 12:20 TS ——— ⑤ 15:30 中の茶屋

・ 五合目には 雪が ない。六合目から ぼちぼち 白く なり だし。  
 七合目から 上は エメラルド グリーン の “蒼氷” が でて くる ので  
 アイゼン、ピッケル は しっかり 研いで おかない と こわい 目 を みる。  
 富士山 は や、ほり 高。です 今度 海から 登り ます (研)

● 岳西面 L長谷川 加藤

12/13 14:30 @ 美濃戸口 - 17:30 @ 赤岳鉱泉.

12/14 ショウゴ氷

6:30 @ T.S - 7:15 @ F1 - 11:30 @ 硫黄岳  
頂上通下 - 17:10 @ T.S

全体に氷瀑がまたまた発達していき。特にF2はいつくか氷がかわかるとなるといい。(私は踏みぬいてぬけてしまいました。) F2のみカナルに出す。大滝は下部がバラカナルでツララと多し登るとかきまらぬ。こゝに氷瀑が、発達すれば登るとかきまらぬ。大滝をまき左側の尾根に取っついて硫黄岳直下の緩縁にとる。

12/15 石巻嶺.

6:10 @ T.S - 8:20 @ 取付口 8:40 @ - 12:05

@ 取付口 - 14:30 @ T.S - 美濃戸口.

7:12-4のラッセルが非常に深い。深い所で降りまゝ。下部岩壁で2P、上部岩壁で1Pがカナルに出す。他はノーカナル。緩縁をかき出せば夏道がわかる。1回クラムクラム。また地蔵尾根上部でモホイトポイントのためにかき下り降路がわかる。モホイトポイントの時は左側によりかき出す。途中で石巻嶺をうらむように。

旭岳東稜 LA 兼岩 長谷川

1/11 10:30 ① 美、森 林道入口 - 13:30 ① 出舎小屋  
 林道終局よりラッセル。ツボ足でヒカからユシまで。フツパと  
 走ってくるべきだった。小屋にガックを置き、偵察。取りつ  
 きヨルンセは顕著。降雪直後はナツレの可能性が  
 あるのと身前の不明瞭なルンセから取りつのはうがより  
 かも。ルンセ途中までラッセルしてトレスをつける。

1/12 6:33 ④ T.S - 7:55 ④ 稜線上 - 14:25 ④ 肩  
 (ビバークサイト)

稜線にまでたどり着きラッセル、フツパに苦しめられる。  
 ラッセルは深い所を降り、急斜面では頭までつかえる。  
 空身でたどり着いたら下からラッセルする。急登のタケカニ帯  
 では左側の尻根に取りつかせ上部の草つき雪壁  
 に下り降り、ゆるい。雪を踏んだから登る。左側から登  
 るのが一般的らしい。このあたりは雪崩の通り道に  
 なっており表面のおとがある。細心の注意が必要。  
 ラッセルのため降雪中はとり肩でビバーク。肩はあまり  
 ビバーク適地といえない。肩より下でビバークするべ  
 き。肩より上では稜線までビバーク地なし。

1/17 7:40 ④ B.S - 8:00 ④ 登パン開始 (岩稜帯) -  
 12:35 ④ ヒーク - 13:43 ④ ヲルネ頭 - 13:35 ④ 小屋  
 - 美、森 林道入口

岩稜の正面は難かた。降りたとき時間がかかりました。  
 ので左側の草つきの雪壁を登る。しかし雪壁を非常

1. 悪く、雪をいぢりくちしてから登り時間がかかる。  
 右後を登ることも時間的同じくらいかかる。  
 雪で2P 後線に出るから2P ガイルをたしのちコンテ。  
 雪後にはマノアがたこさんあり時間がかかる。また部分  
 的、非常に細い所があり足まをよみぬく。また  
 雪でガイルを1Pのはし、ナイフエッジをコンテでビーク  
 になる。ケルネ東後にはマクが多いか注意したい  
 と見失う。

ハヤ岳の東側は西側とは全く違い、雪が多し。  
 ルートも長いので西側のノリで行くとたい目にあう  
 でしょう。でも非常におもしろいので3年以上たつ  
 経験がたつでしょう。ただ人のトレースのあとが、雪の少  
 ない時期は価値は半減するでしょう。(長谷川)

● ハヤ岳西面

1/2 ■ 加藤 藤江 赤岳主峰  
 BC 0630① - 取村 - 1030② 頂上小屋 1100 - 1145 BC  
 取村前のルゼトバスに注意。材が南峰の  
 ガイド中である。

1/3 ■ 加藤 藤江 ジョウ沢  
 BC - ジョウ沢大巻登山往路下山 - BC  
 大巻はかたつきみ。テク不足でした。(藤江)

● 1/4 西面 (1/2-3)

6 清山, 田原

1/2 阿蘇陀岳北陵

6:30 T.S 麓① → 8:20 JP② → 9:40 阿蘇陀岳ピーク (視界悪)

10:40 北陵下降開始 ⊙ → 12:10 T.S

・ ピー7から赤岳方面への下降路を判らねた往路下山, (上り2P, 下り3P+2P)

1/13 赤岳

1:30 T.S 登 ⊙ → 8:00 赤岳 ⊙ → 9:30 T.S ⊙

・ 本日は赤岳主稜を登るには不十分, ホットアイスを取付か判らねた。アサヒ登山隊と結ぶ。赤岳を登るとはして。(三浦山)

● 美ヶ原 スキー山行 L 河西 笹森 伴野

1/12 ⊙ 8:15 三城越 ——— ⊙ 10:20 王ヶ頭直下 (スキー、ソール着)  
——— ⊙ 12:20 塩ケ場 ——— ⊙ 13:20 茶白山 ———  
——— ⊙ 15:30 茶白山からの下り 1850米 TS.

美ヶ原の台地の上は順調な滑りを楽しめるが、塩ケ場を過ぎるところから雪が少なく苦労する。茶白山周辺は雪が多くスキーの本領がいかせたが、一年生のソールがすぐはかれました。時間がかかった。

1/13 ⊙ 7:10 TS ——— ⊙ 8:45 扉峠 ——— ⊙ 12:20 和田峠スキー場  
——— ⊙ 15:40 八島ヶ原湿原のト真中 TS.

扉峠まではワカン歩行。そこからスキーを付けピークスラインを行く。夏には進入不可能な八島ヶ原の真中のTSはとても快適である。

1/14 ⊙ 7:20 TS ——— ⊙ 9:15 車山乗越 ——— ⊙ 10:30 車山スキー場  
16:00までテレマーク草の練習。16:45のバスで茅野へ下山。  
スキー場にでるまで人が全くいない。パラダイス! であつたが  
車山スキー場から先は完全に街と化していたので北ハツに継続  
するものがイヤになり、1日券をもらって滑った。 (河)

● 11ヶ岳 西面 L 兼岩 地 森

2/8 ⊙ 9:00 美濃戸 — 12:30 行着 11ヶ B.C, 1:30 ~ 3:30 まで中山乗越で冒険  
途中 南沢甲滝を探して遊ぶ。

2/9 ⊙ アミダ北極。6:30 B.C — 8:30 取付。アミダの中を2P  
9:00 上御岩壁, 岩場を2P, 草壁を2P 終り



10:30 B-C, 大正御座園へ 12:45 B-C, 後雪割  
 岩峰の柱をまいて凹状を登る, 正面にもゴンドラあり。  
 中在来区, 下り側から上り側へあるとあり, トーストも食べた。

2/10 ④ 2/7 ④ 6:30 B-C - 7:30 F<sub>1</sub> - 9:20 大滝 - 3:30 B-C  
 大滝は標にゴンドラあり, 登かとうE, Eか, 上か  
 下り側の危険があり, 登らばかた, フアグの中雪櫃も  
 登りつくりE, Eと思わぬパーテ-が ジョウゴ案に集合し  
 す, 1トE, E.

2/11 ① 7:00 B-C 7:30 南沢中滝をトゴロ-記, 13:00 飛 - 13:30 美濃戸  
 アイスライミングはとてもあもしろいが 南沢中滝を  
 5時間も登ると 腰杖橋のようになつてしまふ。 (笹森)

② 1/7 岳西面, L, 河西, 橋口

2/10 ④ 10:00 美濃戸 —— ④ 12:00 南沢中滝 Top Rope 14:45 飛  
 —— ④ 15:45 行着小屋 BC

この日は雪, 大雪が 20 ~ 30 cm 降る。

2/11 ① 6:30 BC —— 地蔵尾根 —— ① 8:00 主稜線 —— ① 8:50 横岳  
 —— ① 10:40 岳岳 —— 12:00 ① 中山乗越北で雪割 —— ① 14:30 BC

昨日の降雪を考へ登攀はヤレ 横走とする。

2/12 ② 6:15 BC —— ② 7:20 取付 (赤岳主稜) —— ② 12:45 赤岳北峰  
 —— ② 13:50 BC

天気は悪か, 大か 問題なし。

2/13 ① 5:35 BC —— 取付を2かす —— ① 7:30 取付 ——  
 —— ① 9:00 石尊稜ではなく 日ノ岳稜を登, ていることに気付き下降 ——  
 —— ① 12:10 BC —— ① 15:00 美濃戸

この日の朝, 我々は登攀意欲満々で 朝暗いうちから出発したが,  
 取付がよくわからず, 他パーテ-に取付をたずねるといふ有様  
 であった。結果としてルートを間違え 敗退といふ後味の悪く結末  
 にも。登るのは自分自身のためから, 自分で考え納得のいく登り方を  
 したい。 (記, 河西)

● 甲斐駒 ~ 鳳凰三山

↳ 河西, 田尻, 笹森, 伴野

2/26 ○ 7:40 横手駒ヶ岳神社

道と間違え林道をしばらく歩いて行く

○ 11:00 竹宇神社との合流点

○ 13:30 刀渡り

○ 15:50 五合目小屋

小屋の手前で雪が深く倒れこぼれ上りてくる

2/27 ○ 6:20 T.S

○ 7:45 七又小屋

三本剣手前の雪はうすいところがある

ルンゼに Fix 40m をはる

三本剣からは Frost していて T.S. にか

はく

○ 13:00 頂上

○ 13:20 登

○ 14:30 駒津峠

○ 15:30 仙水峠

2/28 吹雪のため沈殿

3/1 ⊕ 11:10 T.S

⊙ 12:00 仙水小屋

⊙ 15:00 七沢峠

9:10 の天気図をとる。明日は良、雨やうたは予備日か  
少雨はいいと予想して考え下山する

3/2 戸台へ下山

(記. 伴野)

○ 3/4~8 文登研冬山リーダー講習会

講師 織田博志 藤江、阿部(国院2年)  
小林(早稲田2年)、今里(金大2年)、佐藤(香川2年)

3/4 〇 研修所 0730 - 0830 七姫平(スキ-をばく)  
- (200m 前進基地 TS)

3/5 〇 TS 0645 - 0750 雪見平 - 0915 前大日岳 SH

3/6 〇 SH 0645 - 1000 大日岳 - 1300 SH - 1530 前進基地 TS

3/7 〇 スキ- 上る竹人の樹状法、SHの掘り方

3/8 〇 TS 0610 - 0910 七姫平 - 1100 藤橋 - 研修所

山スキーをやった人が自腹で行けば良ってしまう。(藤江)

○ 剣岳 (奥大日尾根 ~ 剣岳 ~ 早月尾根) 3/11 ~ 3/19  
△ 松下、小久保、藤江

3/11 14:50 馬場島着 ● 今日馬場島は雨である

3/12 6:20 麓田 - 6:50 東小糸谷取付田 - 8:35

中山のコル 〇 - 12:40 1630m T.S 〇

東小糸谷は大きなデブリの上を歩く。降雪後は注意すべし。中山のコルからの登りは急登できつい。尾根の左側を歩く。

3/13 6:15 麓田 ① - 12:00 1885 Peak ① - 14:30 西大谷山  
2100m T.S ①

地図で見ると尾根はかなりやさせてあり、雪庇もデカイ。Fixを11本張った。クズバツ山の登りはやさしい。1885mからは尾根がやや広くなる。

3/14 沈殿 昨夜から降り続いた雪は40cmにもなる。

3/15 朝からすばらしい快晴であるが、雪崩が怖くて  
奥大日につきあがる尾根にはちょっと近づけない。  
指をくわえて待つことにする。

3/16,17 山は大荒れ。吹雪とガスのため沈殿。

3/18 6:55 麓① - 10:20 クズバ山① - 14:10 1650m T.S.①  
今日は日中快晴で逃げ帰るには絶好の日で  
ある。雪がくさって歩きにくいが一息いで引き返す。  
Fixが9本と15mのアップザイレン。

3/19 5:40 麓① - 7:20 東小糸谷出合① - 馬場島  
雪がしまっている間に大急ぎで下山。剣は速かた。(松下)

○ 戸隠連峰區長P5級 (3/14-15) L: 浦山, 田尻

3/14. 12:00 品沢高原① → 14:00 第一岩峰下前のアフトー (雪洞をほる) ①

・ 4-5間の沢は雪崩で注ぎ、アフトーは林道で通っている。

3/15. 6:00 S.H 麓① → 7:30 敗退決定 (第一岩峰の悪場) → 10:00 品沢高原

・ 昨夜の降雪で、斜面のトラバサがひどい。第一岩峰のアフトーまで、  
直壁を登るが氷のキコが出口をふさぎ、せめて敗退とする。(浦山)

○ 鹿島橋 - 東尾根

3/25 ~ 27 L: 浦山, 橋口

3/25. 大谷原 7:00 麓①

取付 8:00 ①

藜根上 8:45 ①

一ノ沢の頭 11:50 ①

二ノ沢の頭 T.S. 1:15 ①

トレスがあり、おすかた。一ノ沢から二ノ沢までいくとき  
横にクバスがある。ソリスリ、アフトーやおいこるがある

3/26 T.S. 6:30 麓①

第一岩峰下 7:20 ①

第二岩峰下 8:30 ① IP

北峰 10:00 ○

ニハノ頭 TS 6:15 ①

登山はクラスシとヒゲハハカを第一岩峰は雪が少なくノザイル。第二岩峰はフリーで四ノくはあつたうお目かけのリングがあるのでなんと登れる。下る時は雪がくさつて雪崩の危険もある。第一岩峰をZP17Hおし。その下のスノキョフオオIPスオカトで行く。スノキョフ下の残雪雪洞で雪崩の危険が有違が下がつてなけるまで100〜5:30まで待機した。

3/27 TS 6:00 ●

大谷原 10:00 ●

尾根は同ルート下降で短期暴攻が悪天にもよく。また楽で良い (17:10)

● 岩菅山 スキー山行 L 河西 松下

3/26 09:30 志賀高原 前寺小屋山リフト終矣 — 012:30 ノキリ 2072 米峰  
— 013:15 岩菅山山頂 14:00 終 — 016:00 1693 米峰 TS

3/27 ① 7:00 TS — ● 8:00 → ノ瀬 天気が悪くなるので下山

寺小屋峰から岩菅山の間は巨大シカブライヤキ10枚巨大雪庇かたくさんあるが、暗れてくれば楽しいスキー歩行が味わえる！山頂からも荷物が軽ければ快適な滑降となるはずであったが、スキーよりツボ足の者がほやかった。山スキーは軽量化がオーである。松下さん、これにこりずにはたいてまほ (河)

● 剣岳源治郎尾根 (4/28 ~ 5/1)  
L 松下 小久保 牧野

4/28 松本 - 立山 - 宣堂 - 雷鳥沢下 S O

4/29 4:25 終 ① - 6:00 御前小屋 ① - 7:00 剣沢 BC ①  
今日は2時間半の行動である。テントを張り終わると雨が降り出し午後から雪になる。

4/30 沈殿 朝のうち雪崩とガスのため出発をためらい  
結局時間切れで取りつかなかつた。午後  
は快晴であった。

5/1 3:45 峯◎ - 6:00 剣岳頂上⊕ - 8:00 剣沢下S⊕  
11:10 御前小屋⊕ - 13:30 室堂◎ - 下山  
今日は天気が悪くなるというので源治郎をやめて  
南方稜線から剣岳をコースにして下山することに  
した。カニの横パイには鎖が出ておりザイルは  
出さなかつた。平蔵のゴルへの下リにはFixが  
あった。剣沢から御前への登りはガスのため  
苦勞させられた。  
(松下)

# ゴールデンウイーク合宿

不帰東面 L 河西. 植垣. 橋口. 藤江. 田尻. 笹森. 伴野

4/28 ① 11:45 八方尾根免平ゴンドラ駅 — ② 17:20 丸山ケルンBC

おとしより雪が少なく、2150米付近まで尾根上に雪がほとんどない。  
BCは丸山ケルン南2420m地奥

4/29 ① 6:50 BC — ② 7:20 唐松沢本谷のゴル — ③ 8:50

不帰の山嶽 I. II 峰間ルンゼのゴル — ④ 10:00 唐松沢本谷のゴル

河西. 植垣. 橋口でFix互作 — ⑤ 11:30 八方尾根2350mで雪割

— ⑥ 14:00 終了 — ⑦ 14:15 BC

天気があまりよくなないので縦走とする。II 峰はザイルを出さず  
に通過できるが、2年生にFixの練習をさせてもよかった。

(この日は主稜線にも雪がほとんどなくアイゼンを付けなかつた)

唐松沢本谷下降は雪が多くクラストした急な斜面に  
なつて、たので9mmφ40mコテでFixを張る。

4/30 ④ 4:30 待機 ④ 9:10 BC ——— 10:00 ころより吹雪止み  
暗水間広がる。八方尾根各所で雪割 ——— ④ 13:30 BC  
16:00 以降 ホワイトアウト 降雪あり。

5/1 ④ 4:55 BC ——— ④ 唐松沢本谷のコル 5:30 ———  
—— ④ 10:00 まで 唐松岳周辺、八方尾根上部で雪割。その後  
BC より南東で雪割 ——— ④ 12:10 BC すでに ④  
朝出発のときは高曇りだったが、東の空に濃いピンク色  
の朝やけがあらわれ、天候が悪化しそうだった。(おとしも  
朝やけの日に天候が悪化した)。唐松沢は昨夜の降雪でク  
ラスタ上上に30cm 程雪が積っており、4/29に張ったFixは  
完全にうもっていた。雪と天候から判断し、登攀を中止  
して雪割とする。雪割中に笹森が左足首ネンゲ。

5/2 ④ 沈瀬 朝から視界不良、強風、降雪多。  
15:00 ころにはネットのまわりのピッケル等も雪にかくれ  
スコープでほり出す。夜半に雷

5/3 ④ 撤収開始 12:00。13:00に出發するものの、行動困難  
のため再びBC建設 14:30 —

5/4 Fix回収隊 L 河西、藤江

06:10 BC ——— 06:40 唐松沢本谷コル、Fix回収作業  
7:50 終 ——— 08:30 BC 本隊と合流、BCはFix回収の向に撤収  
09:10 BC ——— 2200m 付近で雪割 ——— ④ 12:30 コンドウ駅  
本谷の下降途中に張ったFixは1.1~1.2mほど埋っており、  
上の支索のス1=11~ x2本とシュリンゲ x3本しか回収できな  
かった。9mmφ 40m コル x1、シュリンゲ x1本残置。

(記、河西)

① G.W.合宿会計報告

収入	¥10000	× 7 =	¥ 70000
支出・エッセ			¥ 35056
		1人当り	¥ 626
・ 準備			¥ 4723
		1人当り	¥ 674.8
・ 交通			¥ 31970
		1人当り往復	¥ 4567.8
・ 雑費 (ビル代、泊代)			¥ 2050
◎ 総額			¥ 73799

残高 ¥3799 - ¥290 (持込残) =

¥3509 の赤字

藤江がビル代、泊代で ¥2000、田尻が交通費1人分で ¥2500 立て替えているので、それ以外の5人から (¥4500 - ¥290) × 7 = 6013... 徴収し、藤江には ¥1400、田尻には ¥1900 還元します。(田尻)

② エッセの原簿

計画では、メニューが単純になってしまった。中に入れる具など  
も少し。考えればよかった。量も 適量だったと思う。  
今回、おにぎりに肉等 ちょい、たか、使った。

笹森

③ 装備

消費量 ・ 火 53本 (100本) 8.8本/泊

ガス 3.6L (6L) 0.6L/泊 85.7cc/人泊

ロケット 2本 (3本) 0.33本/泊

( ) は 持、てい、つ、量



残置 コントローラ 9mm 40 1本  
シェリナゲ 3本

反省 準備ができておきとできなかつた。  
装備の量はちやうど良かった。  
小まじり塗りコは使えない。

(伴野)

## ・個人の反省

昨年につづき、今年のG.Wも登攀の成果をあげることはできなかつたが、天候を考えると仕方ないと思う。(しかし登れない日はそれなりにやることはいくらでもあるのだから、雪割、縦走をしっかりとこなしていったことは評価できるのではないだろうか。

今回の合宿で最も問題とされることは5月3日の行動である。あの天候の中BCをたんで下山すべきかどうかは、CLとSLの判断だけで決定すべきではなく、当然リーダー会をひらくべきであった。今後このようなことが再びおこればSAC内部で相互不信の芽を許すことになってしまうし、すぐに事故に直結するだろう。お互いの意見を冷静にぶつけあう場として、どんなときでも、リーダー会の重要性を忘れてはならないと痛感した。そういう面での3年生の活発な発言も期待したい。2年生は合宿の推進力となるにはまだもう一歩である。自分に何が必要かよく考えてみよう。

河西貴史

### G.W. 反省 植垣 健太郎

今回は昨年同様、全く登攀ができず、城ヶ崎にでも行ってたほうがよっぽどよかったと思うほどの内容だった。しかし、ホントに五月かいたと思うほどの気象でもあり、命知らずな社会人の又ネもできないのでまじやうがないだろう。ただ、5月3日の下山判断は少な過ぎりで、反省している。3年生はもちろん

2年生も思ったことは口に出し、意見を積極的に聞かせてほしい。それから、雪訓中、特に落ち役はアイゼンを脱ぐ、バイル、スノーシュー等外すという基本的なことをせずに延森、伴野に力かをさせてしまい、これも反省。2年生、3年生はもと適確な判断のできる上級生になって下さい。

## 反省

春休みにほろろルに行っており、コーレテックワークも卒研のフジラと合宿にでれず、おたさんごめんアツイ。まあこれから今年一年いっしょにがんばっていくでしょう。

長谷川

不帰の雪は興味あるので是非登ってみてはどうか  
登れなくて残念だ。たぐれ予知、予防についてはあるまじく  
までは判断できるかとか自信ない。登れないのでは意味ない。とサバ読んで突込みそうなお気がする。たぐれ認識をもっと深めないといけな。おれにしても、冬合宿といい、今回の合宿といいなかなか事前の計画通りに成果がよくなる。会全体の力が推し計れないところがある。不安だ。リーダー会でも検討された様にもっと簡単なルートでも良いのかも知らない。(田尻)

着山個人山行の反省感想 藤江  
春の個人山行は文章が別とすと剣のみで佳。  
往路下山中 ティン場を目前としてつつつちとヤバそう  
な急斜面と突二人でほり、雷轟足元の雪がスパン  
と鳴る時は本気でビビった。教訓を生かせた反省。

G.W. 合宿の反省感想 春山  
 まず、先づ成にかけのままで、又、その撤収の際に  
 リーダー護の自覚を持って、力を強く主張する人にも  
 G.W. に、雪後技術の習得を目的とし、合宿を印は、  
 G.W. に、ヒアリングを行おうとしても、サマシなものでは  
 ないだろう。雪後を登り行くこと自体は、力加わりのが。

### 春山の反省・感想

八名でルートを訪ねたのは、大きな類文だ。た  
 らは、自力を信じるべきである。鹿島槍は、  
 悪天をつけて、遠征の予定を中止し、に、充実は  
 山行だと思ふ。やはり、にもつは、おる、い、た、  
 せ、し、か、し、た、ら、思、て、食、料、装、備、を、増、す、こ、と、を、  
 何、が、重、く、な、り、山、行、半、日、に、な、る、必、ず、最、低、限、  
 の、物、を、持、つ、て、い、く、こ、と、を、天、氣、の、大、変、に、は、  
 こ、ろ、が、大、切、だ、

下川

### 春山の反省

伊半野達也

夏の縦走で黒戸尾根は歩いたのだが、最初の林道で  
 道を間違えてしまった。確信は、証ではないが途中おか  
 しいなと思、たとき、に、言、え、ば、良、か、た、。田、原、山、に、  
 か、せ、て、し、ま、つ、た、。

### ゴールデンウィークの反省

伊半野達也

雪訓をやることはわかっていたのだから、理論  
 的なことは、し、か、り、と、お、ぼ、え、て、お、く、べ、し、ま、つ、た、。い、ふ、  
 も、と、自、分、で、考、え、判、断、し、て、行、動、を、お、こ、す、よ、う、に、な、  
 る、こ、と、を、し、ら、ね、い、い、。

雪山、コルネーワの反省、感想

春は、箱崎、守とんど山に作らざりおいた。自分から積極的になりたかと思ふ。冬も冬も通じて、雪山は、今こそ楽しめた。特に長島橋。ハッハ、印象深い山だ。ゴールデーンワでは、箱崎 峰を登らず。ワガガして 昔にも思ふがかりで、箱崎下りのリフトに乗り、とてもやすかしかた。作りのにも、手間は、

**延森**

唐沢と西尾根隊 (冬合宿の下見) の反省 L: 浦山、松下、藤江。

昨 1990年11月10日に西尾根偵察隊は、下山報告を全くしなかった件について反省をしたと思ひます。そして留守部長をらんに冬関係に多大な御心配をおかけしたことを深くお詫言ひいたします。下山後連絡がなされたが、当然おこるべく心配が起り、千々七に支障を及ぼしたことを深く反省して居ります。この様な山でも自分たが不登りののではないと、千々七である自分自ら改めて確認させられました。

◎ 作文コーナー

浦山 大介

伴野 達也

○ 仙水峠から、北沢峠に下るとき何度か「ズドン」という音を聞いた。とても恐ろしい。でも河西工事は「雪のしる音だから大丈夫だよ」といっていた。でもその音で、ほり恐ろしかった。北沢峠に下りたとき、何となく、とても夏と違って、平台で歩かなくてはならない。千々七がかなりの道のりだ。南平は「カイ」。

○ 昨日、11月10日、水曜日を、とて急げなげな、東山峠、とて急げなげな、昨日、7時に 昨日、いよいよ、酒を飲んで、河西工事は、わかれ、栗原戸へ向かてくた。昨日、登った、アスベル根。見た目は、北西傾斜も、昨日の、ジゴロ、アスベル根、登った、いた、山側、カクカクする。20分ほど、山側、トレス、と、入って、グワ、と、い、いか、水、右、ト、下、を、三、今、左、中央、の、右、下、山、日、の、食、箱、崎、二、人、を、

たのこをかくるくまを日曜しむじめの時。妻が三人。エモス、こい

顔で。トップロープをかけた。石も登りだした。

僕は、雨が来て動くのを待つにまわっているが、やけど程度に  
にまで来た水も登、E。結局、5時間ほど雨も降った。  
急降入は、まて降った。まて、雨のへて18Eで。

帰りに最後のコンドワイアと日。E。バイクが、カクカクいいた。  
あとには、有名な話がある。結局、行っても帰りにバイクで、  
バイクが、一着った。山行は、Eのかもいはない。

#### 八方尾根の雪 藤江

GW合宿中の5月3日、激しい地吹雪が襲ってきた隙について僕らは丸山BCの撤収を始めた。しかしパッキングの最中にまた地吹雪が激しくなっていく。外して風にあおられるオーバー手やキスリングの中に雪が積もっていく。こんな事初めてだ。河西さんがトップ、俺がツバイで歩き始めた。2〜3歩歩き始めてブツマげる。強風で荷物があおられる。視界が隠す。フカフカの雪の上にあるはずの河西さんのトレースが見えない。と、突然トレースにはまってしまうバランスを崩す。こんな歩けない、リーダー部員だということに、どうしよう。河西さんとの間隔が開いてしまうのが恐ろしい。必死こいて歩くが同じ所で足踏みするだけだ。でも間隔は変わらない。そうだ、こんな誰だって歩けるわけないんだ。このまま突っ込んだら絶対ツボる。「河西さああああああん！」# \$ % & ' (= ~ | { + ? > ) 。」なんて言ったのかよく覚えていない。「マズイっすよ。」とも「戻りましょう。」とも「歩けません。」とも言ったような気がする。とにかく泣きそうになりながら叫んだ。

再びテントの設営を始めてかなりたつ。ポールをセットしテントを起こす。すぐに風に引き倒される、ポールが外れる。これの繰り返しだ。外れたポールを田尻が一生懸命直している。河西さんが張り綱をセットしようとしている。植垣さんがすこし離れた所に置いてあるみんなのザックを一人でボッカしている。俺は両手でポールを抱き抱え尻についてテントが飛ばされないようにする。それでも体ごと倒される。気が狂う一歩手前という感じだ。新田次郎の小説で山で死ぬ直前に突然踊りだしたり歌いだしたりするヤツの気がわかるような気がする。元気づけるつもりで「雲にうそぶく」を歌おうかと思ったがハズミで気が狂うような気がしてやめる。必死で自分を押さえる。もう雪山なんて二度とこないと心に誓う。頭上には切れ切れに青空が見える。今ごろ八方のスキー場ではギャルがキャピキャピ言いながら滑っているのだろう。こんなに山が怖いのは初めてだ。大自然にもあそばれているような気がする。ポールを握る手が凍っているみたいだ。ハンガロンの指先に小石が入っているみたいだ。

4年生がおやつのカップスープを作ってくれる。うまい。百発殴られてもいいから皆の分も飲んでしまいたい。無事テントを張り一息つけた。俺が一番興奮しているようだ。寝えがとまらない、ペラペラしゃべる。このままじゃいけない。4年生になるまでにもっともっと山に行って経験を積まなくては。早くも誓いを破る俺である。

積雪期から G. IV. までの山行報告

印刷・発行：上田・長野支部

1990年6月12日

信州大学山岳会



—CLIMBING JOURNAL

—慶刊記念特別増刊号—